

# 評価指標及びモニタリング項目の状況

# 評価指標 一覧

項目	基準値（令和4年度）	令和6年度	令和7年度	目標値
<b>公共交通利用者数（年間乗車人員）</b> 本市における鉄軌道、路線バス、堺市乗合タクシーの各利用者数	鉄軌道：112,067千人	116,265千人 (令和5年度)	117,509千人 (令和6年度)	現況値以上
	路線バス：20,157千人	21,941千人 (令和5年度)	21,486千人 (令和6年度)	
	乗合タクシー：24千人	27千人 (令和5年度)	29千人 (令和6年度)	
	合計：132,248千人	138,233千人 (令和5年度)	139,024千人 (令和6年度)	
<b>公共交通に係る市民満足度</b> 堺市市政モニターアンケートによる現状の公共交通に対する満足度	56.2%	58.1%	62.9%	現況値以上
<b>公共交通人口カバー率</b> 鉄道駅から半径800m以内、路線バス・阪堺電車・堺市乗合タクシーの停留所（場）から半径300m以内の公共交通利用圏域に含まれる人口割合	96.4%	96.7%	96.7%	現況値

: 基準値と比較し改善しているもの
  : 基準値と比較し悪化しているもの

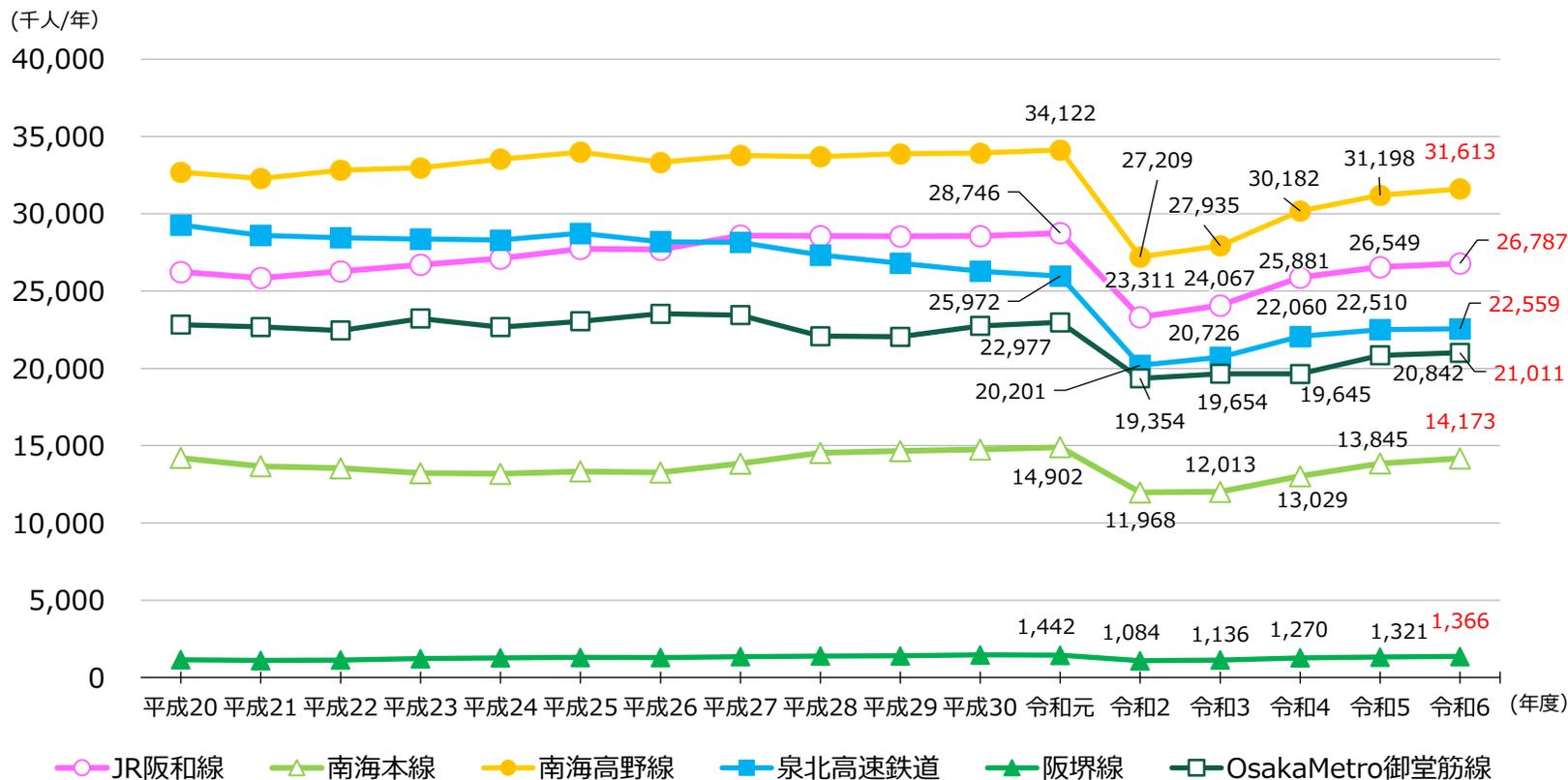
# モニタリング項目 一覧

項目	基準値（令和4年度）	令和6年度	令和7年度	関連する目標
本市の公共交通に係る歳出	617百万円	717百万円 (令和5年度)	766百万円 (令和6年度)	目標1,3
公共交通の利用頻度 (公共交通を「週1～2日以上」利用している人の割合)	38.8%	43.1%	45.2%	目標1,2,3,5
移動の快適性・安全性の市民満足度 (車いす、ベビーカーでの移動やホーム柵設置など)	36.9%	40.7%	46.4%	目標2,4
バス停留所（各拠点以上）、車内の運行情報及び施設案内等の多言語化率 (日・英2か国語以上)	停留所 39.5% 車内 53.0%	停留所 39.5% 車内 61.9% (令和5年度)	停留所 39.5% 車内 71.9% (令和6年度)	目標2,3,6
ノンステップ車両の導入率	57.7%	65.9% (令和5年度)	73.1% (令和6年度)	目標4
低床式車両の導入率	11.4%	11.4% (令和5年度)	11.4% (令和6年度)	目標4
運輸部門での温室効果ガス実排出量	969千t-CO <sub>2</sub> (令和2年度)	969千t-CO <sub>2</sub> (令和3年度)	1,002千t-CO <sub>2</sub> (令和4年度)	目標5
多様な関係者が参画する会議の開催回数	5回/年	12回/年 (令和5年度)	6回/年 (令和6年度)	目標7

: 基準値と比較し改善しているもの
  : 基準値と比較し悪化しているもの

# 評価指標（公共交通利用者数 鉄軌道）

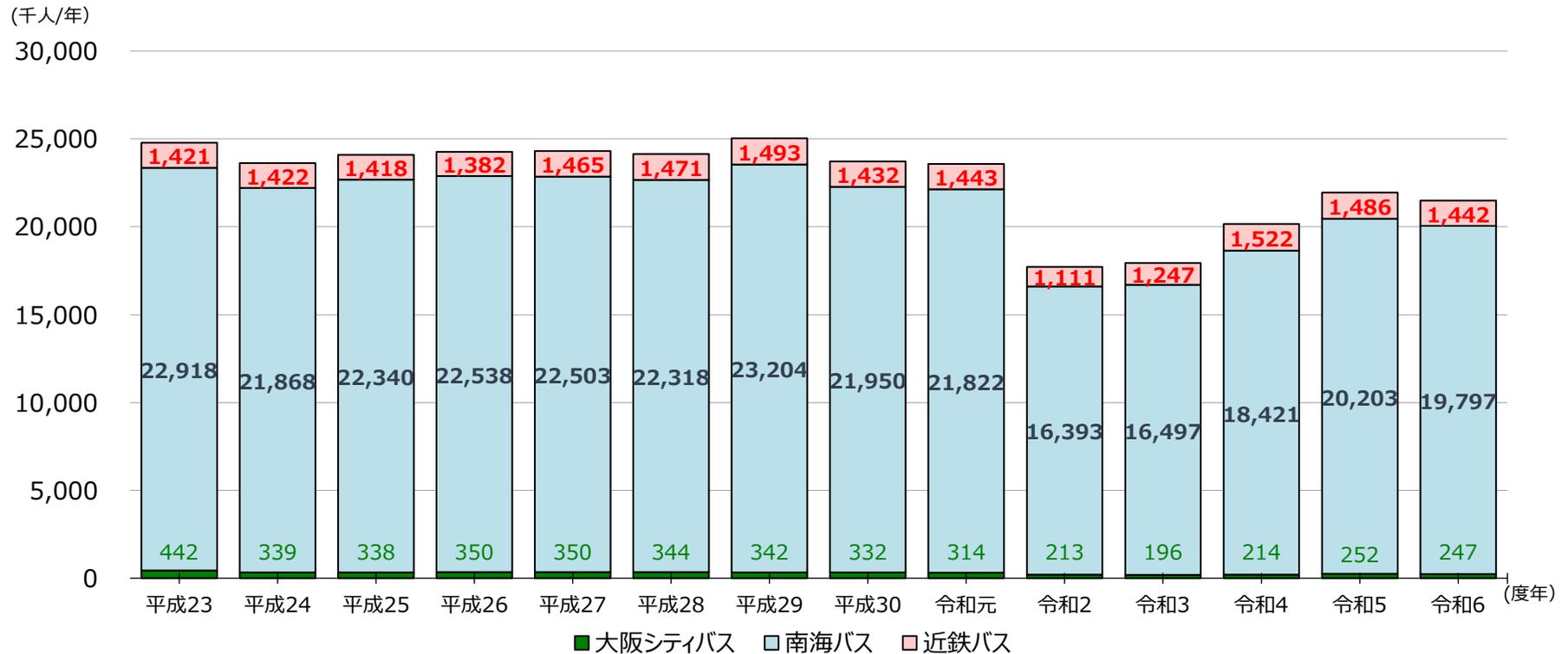
項目	基準値（令和4年度）	実績値（令和5年度）	実績値（令和6年度）	目標値
<b>公共交通利用者数（年間乗車人員）</b> 本市における鉄軌道、路線バス、堺市乗合タクシーの各利用者数	鉄軌道：112,067千人 路線バス：20,157千人 乗合タクシー：24千人 合計：132,248千人	鉄軌道：116,265千人 路線バス：21,941千人 乗合タクシー：27千人 合計：138,233千人	鉄軌道：117,509千人 路線バス：21,486千人 乗合タクシー：29千人 合計：139,024千人	現況値以上



- 令和6年度の鉄軌道利用者数は、基準値である令和4年度実績から約4.9%増加している。
- コロナ禍から公共交通の利用が徐々に回復していることが要因と考えられる。

# 評価指標（公共交通利用者数 路線バス）

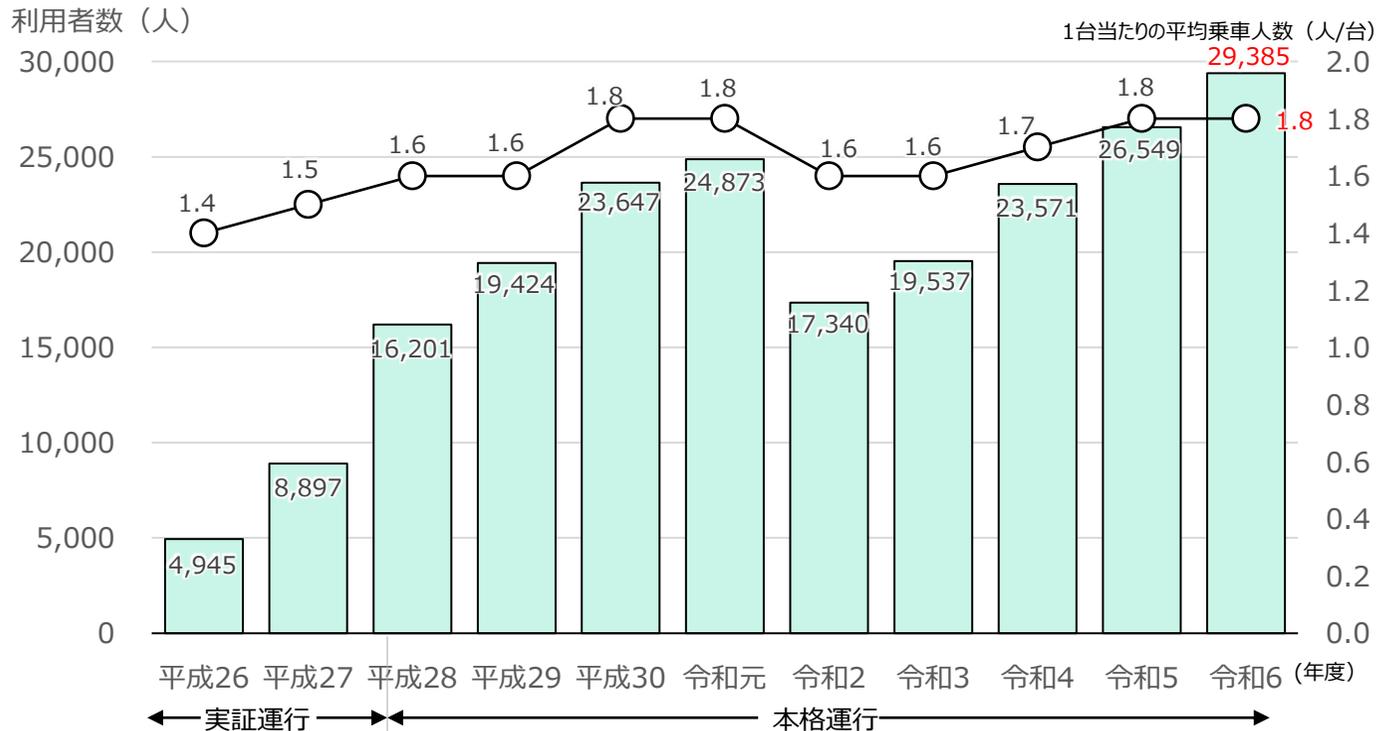
項目	基準値（令和4年度）	実績値（令和5年度）	実績値（令和6年度）	目標値
<b>公共交通利用者数 （年間乗車人員）</b> 本市における鉄軌道、路線バス、堺市乗合 タクシーの各利用者数	鉄軌道：112,067千人 <u>路線バス：20,157千人</u> 乗合タクシー：24千人 合計：132,248千人	鉄軌道：116,265千人 <u>路線バス：21,941千人</u> 乗合タクシー：27千人 合計：138,233千人	鉄軌道：117,509千人 <u>路線バス：21,486千人</u> 乗合タクシー：29千人 合計：139,024千人	現況値以上



- 令和6年度の路線バス利用者数は、基準値である令和4年度実績から約6.6%増加している。
- コロナ禍から公共交通の利用が徐々に回復していることが要因と考えられる。
- 一方で、大阪シティバス、南海バス、近鉄バスの各路線で、令和6年度の利用者数はいずれも前年度より減少している。

# 評価指標（公共交通利用者数 乗合タクシー）

項目	基準値（令和4年度）	実績値（令和5年度）	実績値（令和6年度）	目標値
<b>公共交通利用者数 （年間乗車人員）</b> 本市における鉄軌道、路線バス、堺市乗合 タクシーの各利用者数	鉄軌道：112,067千人 路線バス：20,157千人 <u>乗合タクシー：24千人</u> 合計：132,248千人	鉄軌道：116,265千人 路線バス：21,941千人 <u>乗合タクシー：27千人</u> 合計：138,233千人	鉄軌道：117,509千人 路線バス：21,486千人 <u>乗合タクシー：29千人</u> 合計：139,024千人	現況値以上

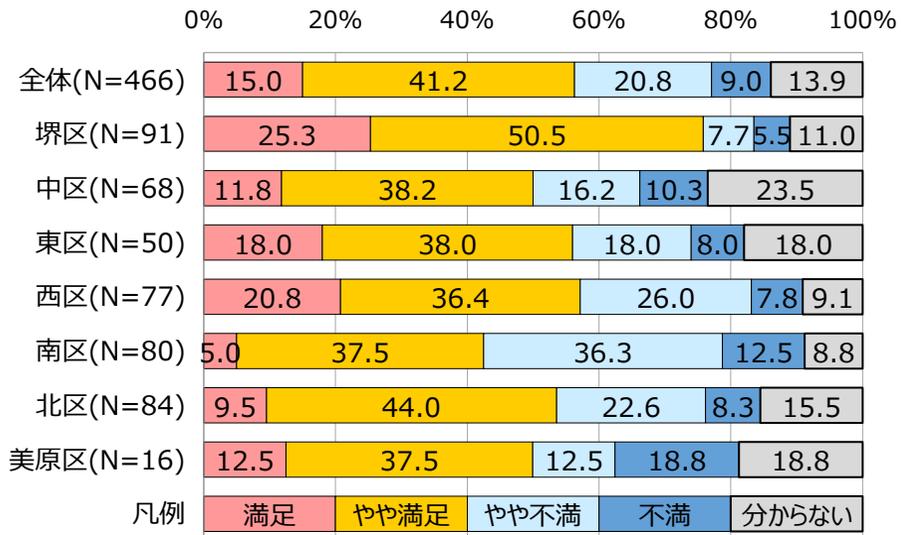


- 令和6年度の乗合タクシー利用者数は、基準値である令和4年度実績から約24.7%増加し、コロナ禍前の水準を上回っている。
- コロナ禍から公共交通の利用が回復していることが要因と考えられる。

# 評価指標（公共交通に係る市民満足度）

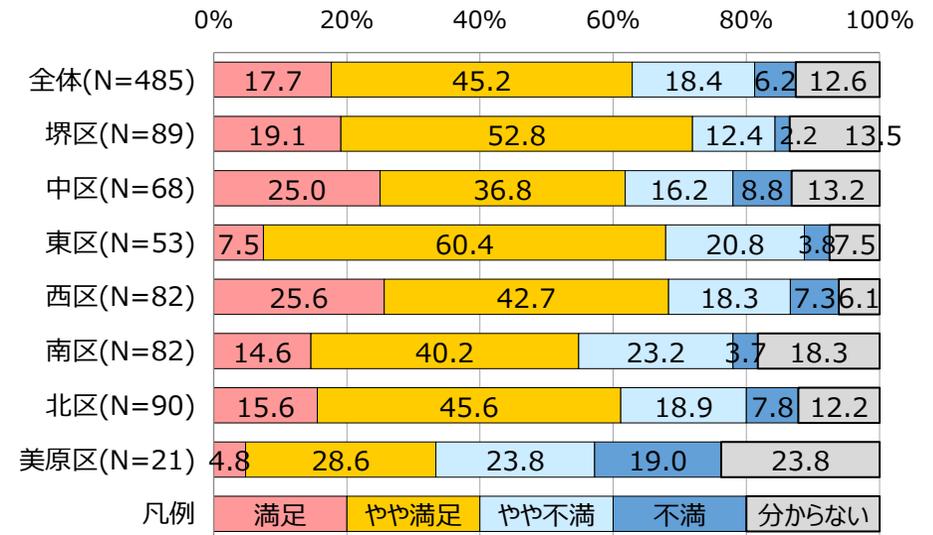
項目	基準値（令和4年度）	実績値（令和6年度）	実績値（令和7年度）	目標値
公共交通に係る市民満足度 堺市市政モニターアンケートによる現状の公共交通に対する満足度	56.2%	58.1%	62.9%	現況値以上

## 令和4年度 結果



(n=466)

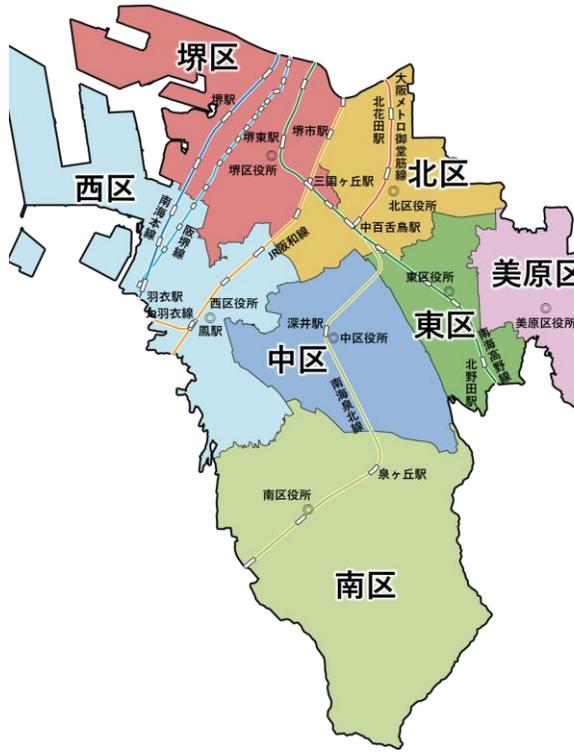
## 令和7年度 結果



(n=485)

- 公共交通全体の満足度（「満足」と「やや満足」の合計）は、56.2%（令和4年度）、62.9%（令和7年度）である。
- 令和7年度の満足度は、堺区が71.9%、西区が68.3%と高く、南区が54.8%、美原区が33.4%と低い状況である。

# (参考) 堺市 各区の基礎情報と公共交通の概要



- 凡例**
- 大阪メトロ御堂筋線(大阪市高速電気軌道)
  - 阪和線(西日本旅客鉄道)
  - 阪堺線(阪堺電気軌道)
  - 南海本線(南海電気鉄道)
  - 南海泉北線(南海電気鉄道)
  - 高野線(南海電気鉄道)
  - 鉄道駅および阪堺線停留場
  - 区境

- 1 人口(人)  
(R6年度)
- 2 高齢化率(%)<sup>(注1)</sup>  
(R6年度)
- 3 区内を走る  
鉄道路線(本)  
(R7年度)
- 4 鉄道駅数(駅)  
(阪堺線停留場数)  
(R7年度)
- 5 区内を走る  
バス路線・系統  
数(R7年度)
- 6 公共交通人口  
カバー率(%)  
(R7年度)<sup>(注2)</sup>
  - 1) 鉄軌道
  - 2) 鉄軌道+路線バス
  - 3) 鉄軌道+路線バス+乗合タクシー
- 7 おでかけ応援
  - 1) 保有者数(人)  
(保有率%)
  - 2) カード保有者1人あたりの年間バス利用回数(回/人)

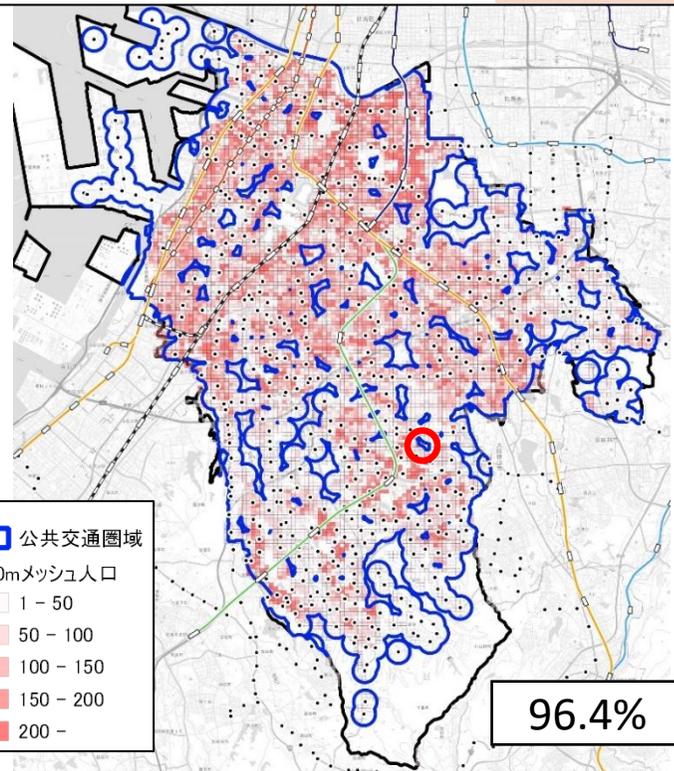
	堺区	中区	東区	西区	南区	北区	美原区
1 人口(人) (R6年度)	147,400	119,112	85,962	135,680	134,369	156,912	37,606
2 高齢化率(%) <sup>(注1)</sup> (R6年度)	27.0%	27.3%	29.7%	26.5%	35.3%	24.6%	30.7%
3 区内を走る 鉄道路線(本) (R7年度)	4 (・南海高野線 ・阪堺線 ・阪和線 ・南海本線)	1 (・南海泉北線)	1 (・南海高野線)	3 (・阪堺線 ・阪和線 ・南海本線)	1 (・南海泉北線)	3 (・御堂筋線 ・南海高野線 ・南海泉北線)	0
4 鉄道駅数(駅) (阪堺線停留場数) (R7年度)	22 (うち阪堺線: 11停留場)	1	3	11 (うち阪堺線: 4停留場)	3	6	0
5 区内を走る バス路線・系統 数(R7年度)	26路線 67系統	9路線 24系統	11路線 25系統	12路線 25系統	12路線 57系統	15路線 35系統	11路線 28系統
6 公共交通人口 カバー率(%) (R7年度) <sup>(注2)</sup>	1) 79.3% 2) 98.5% 3) 98.5%	1) 16.0% 2) 72.9% 3) 95.1%	1) 65.6% 2) 85.3% 3) 97.0%	1) 66.3% 2) 92.0% 3) 96.5%	1) 29.1% 2) 95.2% 3) 97.2%	1) 78.7% 2) 93.1% 3) 96.3%	1) 3.9% 2) 80.5% 3) 94.3%
7 おでかけ応援	1) 29,127 (73.9%) 2) 23.5	1) 24,186 (74.8%) 2) 26.9	1) 16,247 (64.3%) 2) 19.5	1) 26,308 (73.6%) 2) 19.6	1) 38,362 (82.2%) 2) 53.1	1) 25,133 (65.5%) 2) 18.3	1) 8,285 (72.3%) 2) 28.8

注1) 高齢化率は、65歳以上人口を総人口で除した割合(%)である。(出所:堺市『令和6年版 堺市統計書』2-5-2 区域別年齢(各歳)別人口)  
 注2) 人口カバー率は、各区の人口のうち、鉄道については駅半径800m圏内、阪堺線、路線バス、堺市乗合タクシーについては停留所300m圏内に居住する割合を算出している。

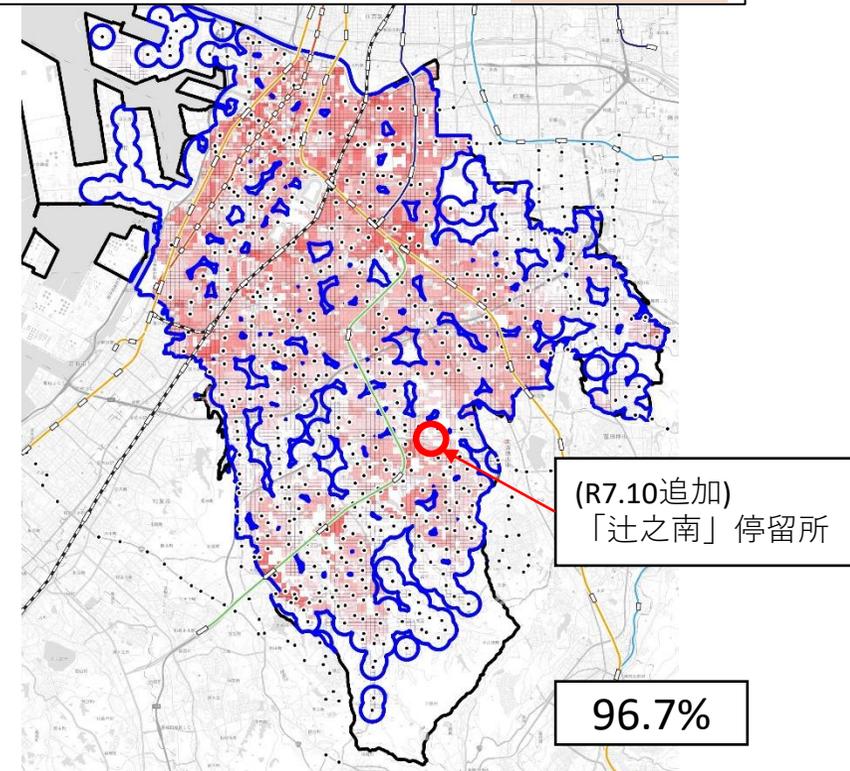
# 評価指標（公共交通人口カバー率）

項目	基準値（令和4年度）	実績値（令和6年度）	実績値（令和7年度）	目標値
<b>公共交通人口カバー率</b> 鉄道駅から半径800m以内、路線バス・阪堺電車・堺市乗合タクシーの停留所（場）から半径300m以内の公共交通利用圏域に含まれる人口割合	96.4%	96.7%	96.7%	現況値

公共交通圏域（令和4年度） 鉄軌道+路線バス+乗合タクシー



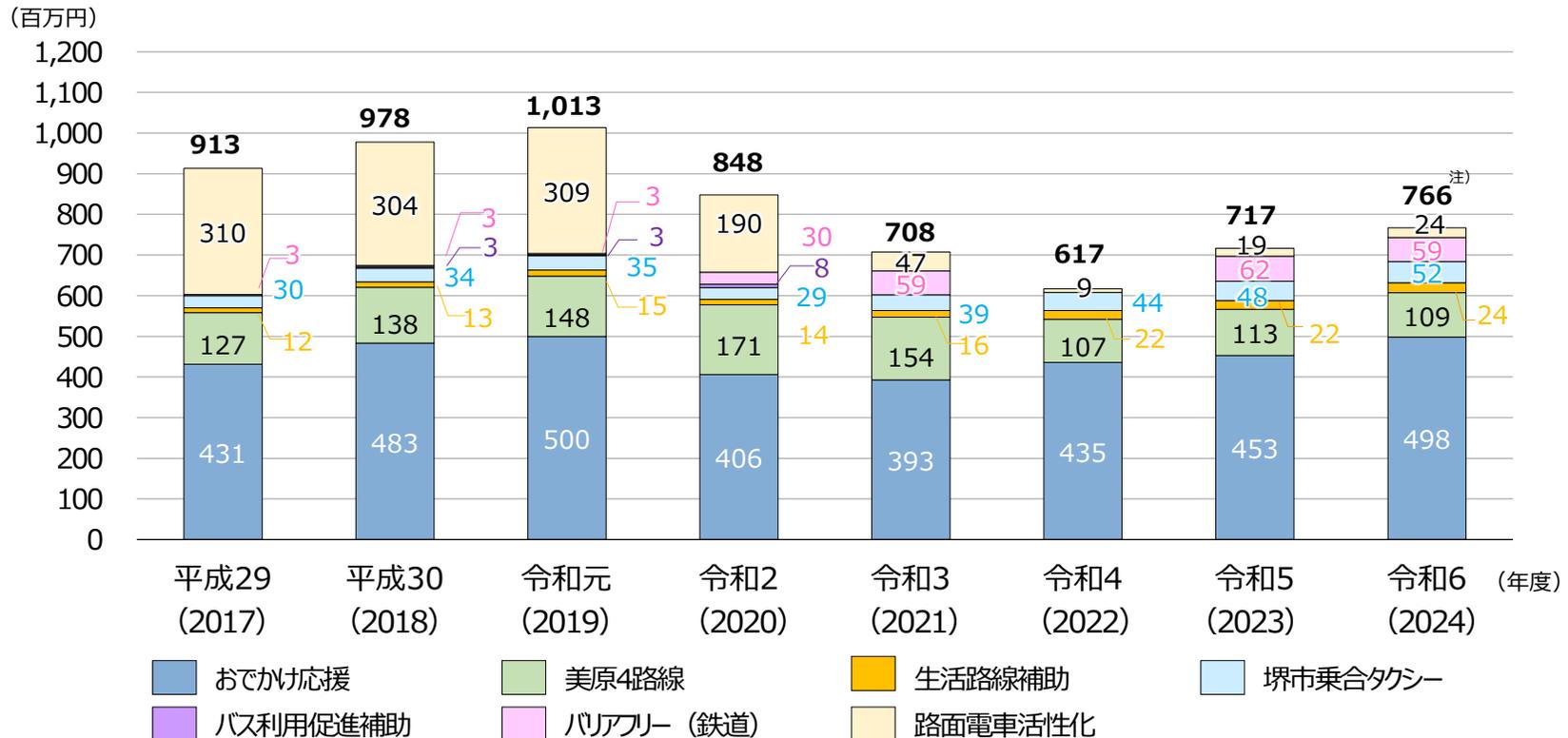
公共交通圏域（令和7年度） 鉄軌道+路線バス+乗合タクシー



- メッシュ人口は、令和6年度に平成27年度国勢調査結果から令和2年度国勢調査結果へ変更。
- 令和7年10月の堺市乗合タクシー「辻之南」停留所追加により、公共交通空白地が一部解消。
- 公共交通利用圏域（鉄軌道+バス+乗合タクシー）の人口カバー率は、96.4%（令和4年度）から96.7%（令和7年度）とほぼ横ばいである。

# モニタリング項目（本市の公共交通に係る歳出）

項目	基準値（令和4年度）	実績値（令和5年度）	実績値（令和6年度）	関連する目標
本市の公共交通に係る歳出	617百万円	717百万円	766百万円	目標1.3



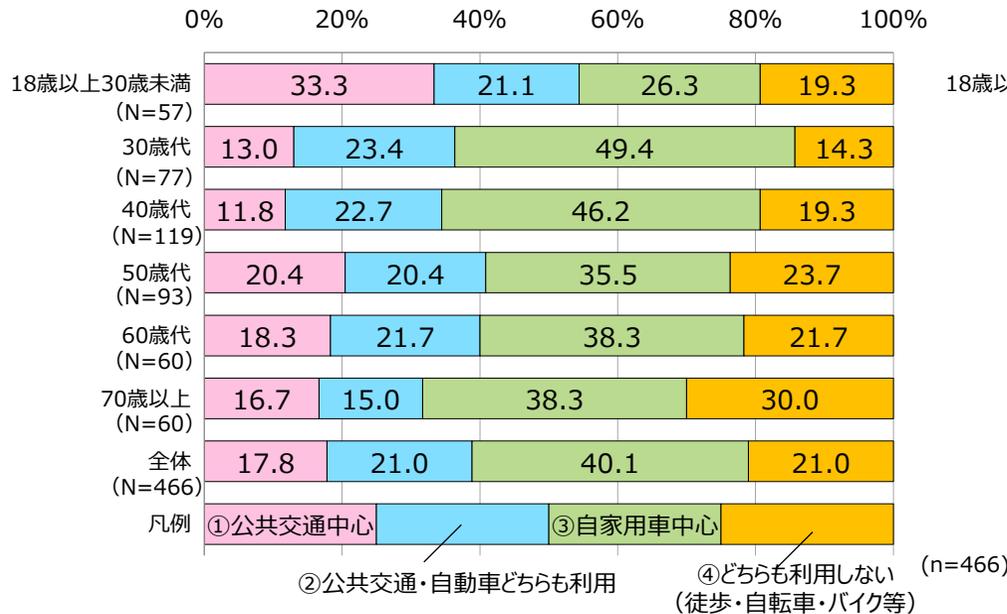
- 令和6年度の歳出額は、堺市乗合タクシーや、おでかけ応援制度において利用者数が増加したことに加え、軽油等の燃料費高騰など運行コストの上昇も影響し、令和4年度の歳出額から約1.5億円増加した。

注) 表記上の端数調整により合計が一致しない場合がある。

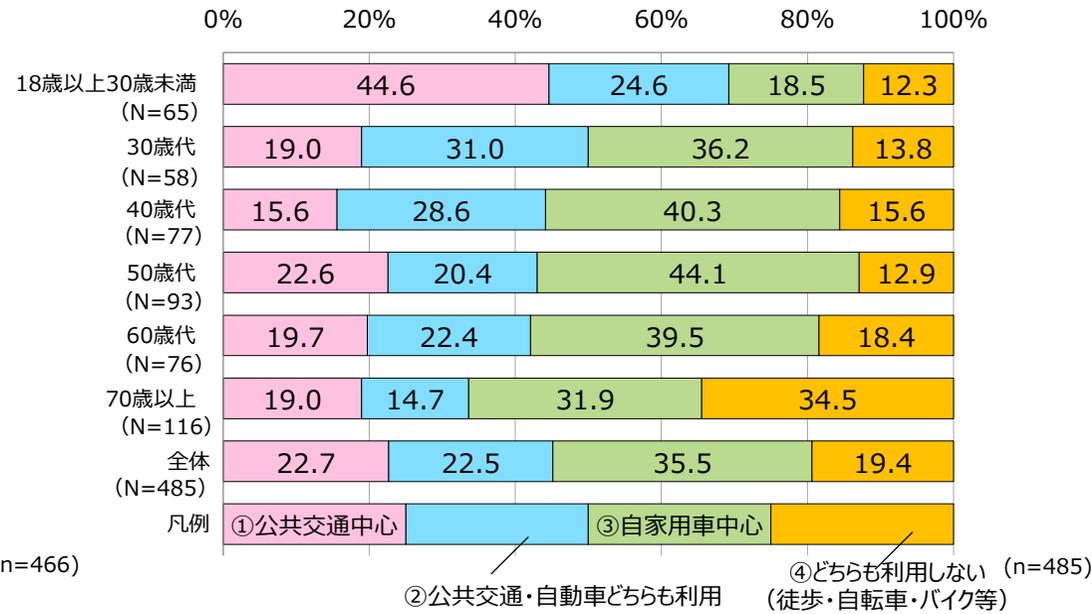
# モニタリング項目（公共交通の利用頻度）

項目	基準値（令和4年度）	実績値（令和6年度）	実績値（令和7年度）	目標値
公共交通の利用頻度 （公共交通を「週1～2日以上」利用している人の割合）	38.8%	43.1%	45.2%	目標 1,2,3,5

## 令和4年度 結果



## 令和7年度 結果

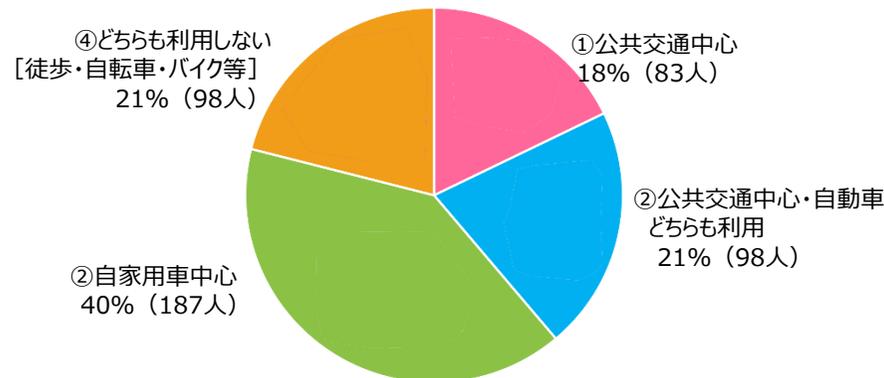


- 公共交通の利用頻度について、「①公共交通中心」「②公共交通・自動車どちらも利用」（いずれも公共交通を週1～2日以上利用している人）の割合は、38.8%（令和4年度）、45.2%（令和7年度）である。
- 年齢別でみると、令和7年度の利用頻度は、18歳以上30歳未満が69.2%、30歳代が50.0%と高く、70歳以上が33.7%と低い状況である。

## <参考 公共交通及び自動車の利用頻度からの分類>

アンケートのうち、設問「日頃、次の公共交通をどの程度利用されていますか（鉄道・阪堺電車・路線バス・堺市乗合タクシー・タクシーの各項目を回答）」と、設問「日頃、自動車をどの程度利用していますか」から、以下の通り利用層を区分し、公共交通の利用状況や満足度、公共交通の維持・確保等について分析しました。

分類	設問の回答項目
①公共交通中心	公共交通の利用頻度が多く（いずれかが「週1～2日」以上）かつ、自家用車の利用頻度が少ない（「月2～3日」以下）
②公共交通・自動車 どちらも利用	公共交通の利用頻度が多く（いずれかが「週1～2日」以上）かつ、自家用車の利用頻度が多い（「週1～2日」以上）
③自家用車中心	公共交通の利用頻度が少なく（全てが「月2～3日」以下）かつ、自家用車の利用頻度が多い（「週1～2日」以上）
④どちらも利用しない （徒歩・自転車・バイク等）	公共交通の利用頻度が少なく（全てが「月2～3日」以下）かつ、自家用車の利用頻度が少ない（「月2～3日」以下）



図表 公共交通及び自動車の利用頻度からの分類

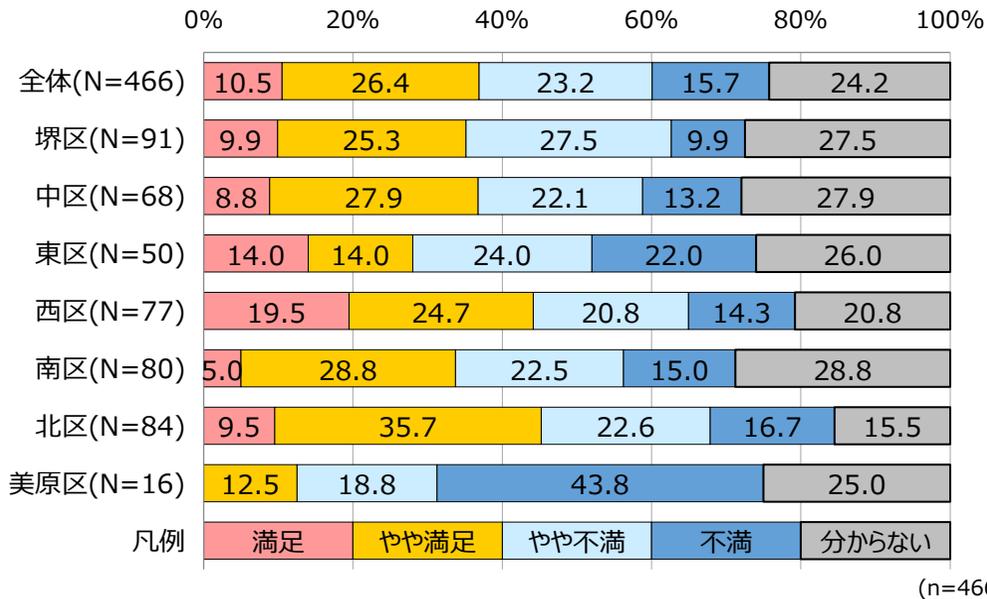
資料：堺市市政モニター（令和4（2022）年度）

# モニタリング項目（移動の快適性・安全性の市民満足度）

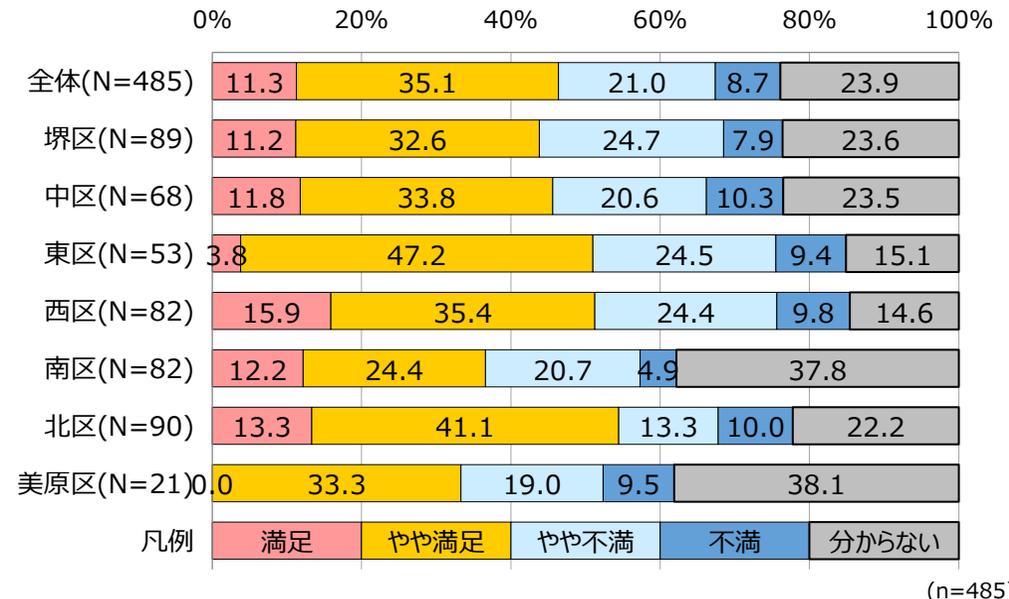


項目	基準値（令和4年度）	実績値（令和6年度）	実績値（令和7年度）	目標値
移動の快適性・安全性の市民満足度 （車いす、ベビーカーでの移動やホーム柵設置など）	36.9%	40.7%	46.4%	目標2,4

## 令和4年度 結果



## 令和7年度 結果



- 移動の快適性・安全性の満足度（「満足」と「やや満足」の合計）は、36.9%（令和4年度）、46.4%（令和7年度）である。
- 居住区別で見ると、令和7年度の満足度は、北区が54.4%と最も高く、美原区が33.3%と、最も低い状況である。